



資料 7

効率化の追求について

(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

1 効率化の追求(これまでの取組)

- 新設会場から既存会場への変更
- 過去大会の知見を持ったコンサルを活用したCVE(※)による全会場の見直しの実施
- 会場の賃借期間をIOC要件の11ヶ月から6ヶ月相当へ短縮化
- 仮設設置による飲食やセキュリティなどのサービス水準の見直し
- IBCにおける空調要件等の見直し

(右に続く)

- 通信インフラの地中化の要件を一部緩和
- 電力設備の二重化の要件を一部緩和
- 観客の公共交通の無償化の取り止め
- 既存イベントの活用などテストイベントの適正化
- 大会ルックの簡素化
- ペーパーレス化の推進

※ CVEとは、整備条件を満たしつつ過剰な仕様を排除したり効率的な整備についての技術提案を行う通常のバリューエンジニアリング(VE)に加え、整備の前提となる条件(Condition)を含んだ聖域なき見直しの取組

2 効率化の追求(The NEW NORMを踏まえた今後の取組)

- 仮設観客席の増設の是非(空席率との関係も考慮)
- 仮設照明の増設の要否
- プレハブからテントへの見直し
- 諸室をさらに共有化・縮小できないか
- フェンスの仕様の見直し
- 仮設厨房設置の是非
- 飲食売店・オフィシャルショップ設置の適正化
- 会場の賃借期間を短縮化の検討

- テクノロジー経費の見直し
- ペーパーレス化の一層推進
- モバイルアプリの活用などイノベーション施策の選択と集中
- 輸送サービスの見直し
- 各種ルックを更に効率化
- テストイベントを更に効率化
- 選手村の要件の見直しの検討
- 競技後の各種医療行為について有料化等の検討